令和8年度
全国学力・学習状況調査における多久市の結果について

各学校では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、学習指導の充実や改善に役立てることを目的に全国学力・学習状況調査を実施しております。結果を分析することで、学力向上に向けた取組の充実につなげています。

つきましては、今年４月に実施した令和７年度全国学力・学習状況調査の結果について、下記のとおりお知らせします。

なお、学力は、知識や技能に加えて自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等を含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部分であり、その全てを示すものではありません。

１　令和８年度全国学力・学習状況調査

(1) 実施内容

ア　調査実施日　令和８年４月２３日（木）

イ　調査の対象

・小学校調査

多久市内義務教育学校６年生の国語・算数

・中学校調査

義務教育学校９年生の国語・数学・英語

ウ　実施児童生徒数

	児童生徒数
前期課程（６年生）	１３９人
後期課程（９年生）	１２２人

(2)　多久市の調査結果概要

ア　教科に関する調査の結果

区　分		県の正答率を「１」と見た時の状況		参　考
		佐賀県	多久市	全　国
前期課程	国　語	1	約０．１下回る	１．０９
	算　数	1	約０．１５下回る	１．０８
後期課程	国　語	1	ほぼ同等	１．０３
	数　学	1	約０．１下回る	１．０６
	英　語	1	ほぼ同等	１．０６

【６年生　国語】

６年生国語科は、県平均よりも約０．１下回りました。無回答率が県よりも高かった問題が、13 問中７問あり、問題の後半に無回答が増えています。観点別では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに県よりも約０．１下回りました。特に「漢字を正しく書く問題」や「文章を読み取り、空欄に入る適切な内容を選択する問題」、「文章を読み取り、文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する問題」に課題が見られました。

【６年生　算数】

６年生算数科は、県平均よりも約０．１５下回りました。無回答率は、県よりも低いものの、観点別の「知識・技能」では、県よりも約０．１５、「思考・判断・表現」では、県よりも約０．２下回っています。特に「体積」や「割合（第３用法)」、「整数と小数の減法」、「表から集計の誤りを見つける問題」、「通分をして分数の大小を判断する問題」で課題が見られました。

【９年生　国語】

９年生国語科は、県平均とほぼ同等の結果となりました。県よりも無回答率が高い問題が１５問中９問あり、無回答率は、県よりも高くなっています。観点別では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに県とほぼ同等です。「漢字の書き取り」や「文章の表現や効果について、良い点などを書く問題」、「擬態語を使った時の様子や効果を書く問題」で課題が見られました。

【９年生　数学】

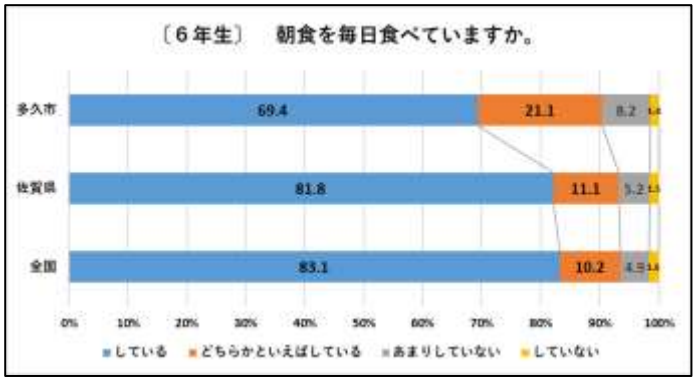
９年生数学科は、県平均よりも約０．１下回りました。県よりも無回答率が高い問題が１６問中１３問あり、無回答率は、県よりも高くなっています。観点別では、「知識・技能」は、県よりも約０．１、「思考・判断・表現」は県よりも約０．１５下回りました。特に「確率の問題」や「同類項の理解の問題」、「手順にしたがってできたＡとＢについて、A-B の差を説明する問題」で課題が見られました。

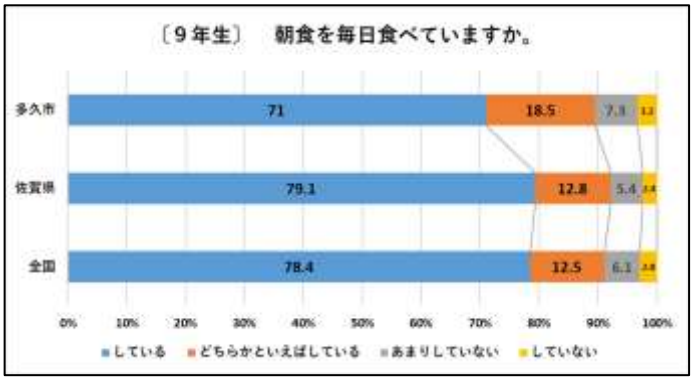
【学力向上に向けた取組】

本調査の結果を受け、多久市教育委員会及び各校で課題を明らかにし、全教職員共通理解のもと、共通実践に取り組んでいます。また、基礎的・基本的な力の育成のために多久市３校共通の取組として、デジタルドリル教材（百ます計算、タイピング）の活用や漢字の集中速習、多久市共通漢字テストに取り組んでいます。さらに令和８年度からは、学力向上プロジェクトメンバーでの会議を年に３回実施し、各校の取組の状況を共有したり、取組方法の改善策を模索したりしながら学力向上に向けた取組を実施しています。

〔児童生徒質問紙から〕

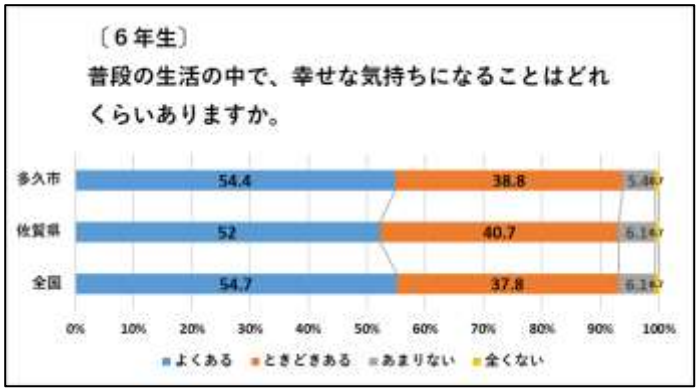
【１．朝食の喫食】

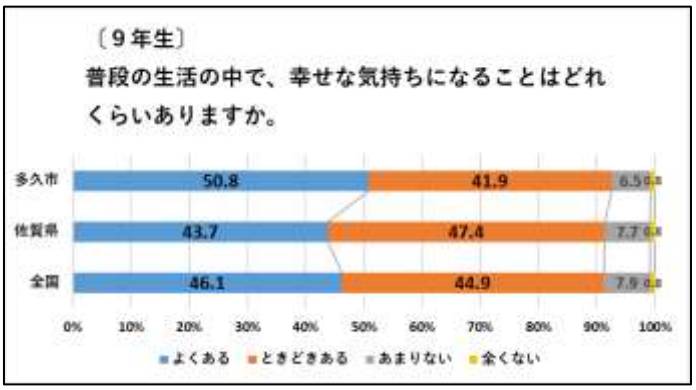




児童調査において、肯定的な回答は９０．５％、生徒調査において、肯定的な回答は８９．５％でした。県平均、全国平均とほぼ同等ですが、「毎日食べている」と回答した割合は、県や全国よりも低くなっており、前年調査よりも下回っています。

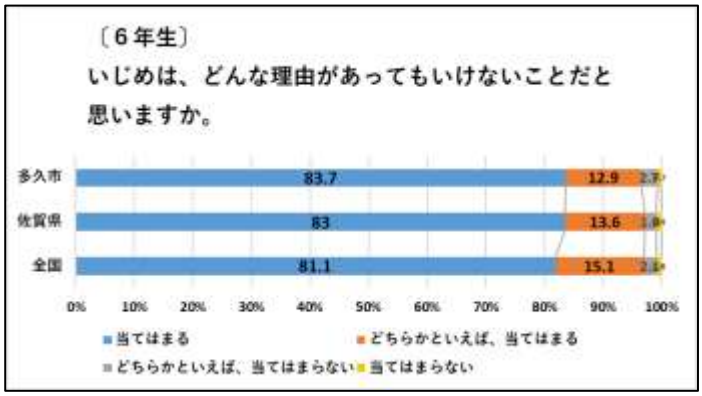
【２．幸せな気持ちになることがあるか】

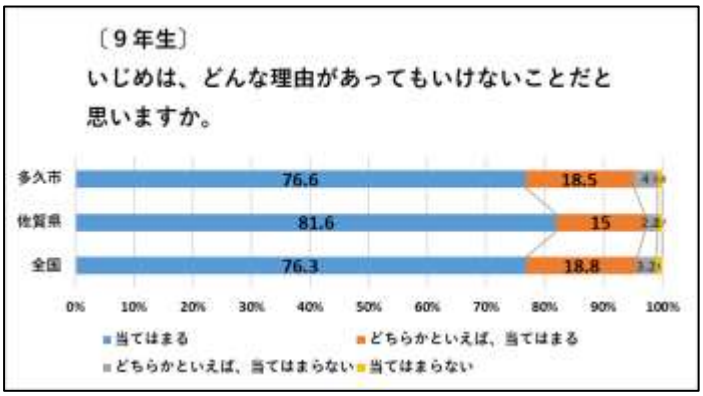




児童調査において、肯定的な回答は９３．２％、生徒調査において、肯定的な回答は．９２．７％でした。県や全国と同等です。

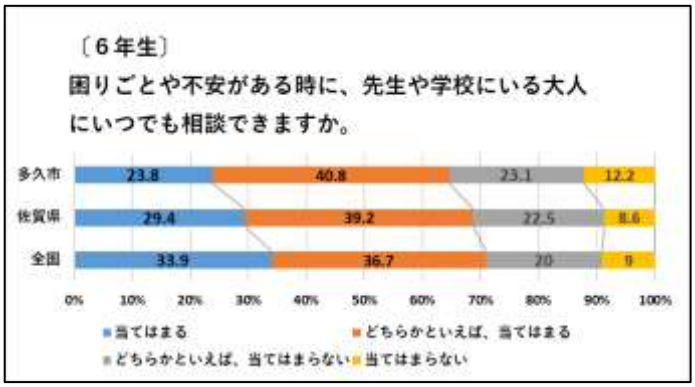
【３．いじめに対する認識】

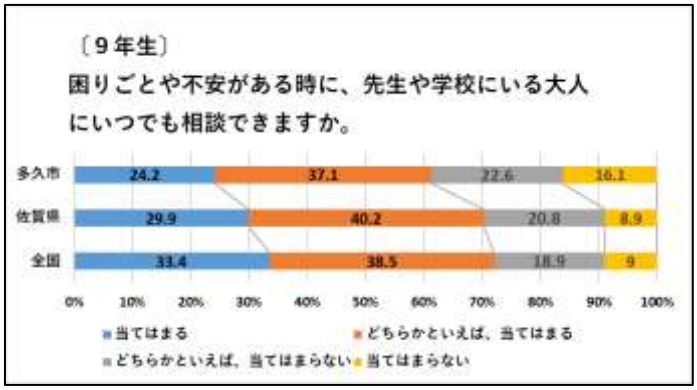




児童調査において、肯定的な回答は９６．６％、生徒調査において、肯定的な回答は９５．１％でした。県や全国と同等ですが、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」という回答が前期は３．４％、後期は４．８％あり、いじめ根絶に向けた取組を継続し、「いじめは許さない」という児童生徒の意識を高めていく必要があります。

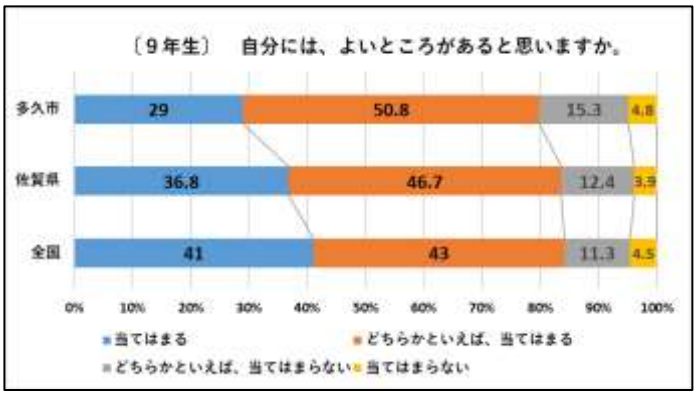
【４．相談】

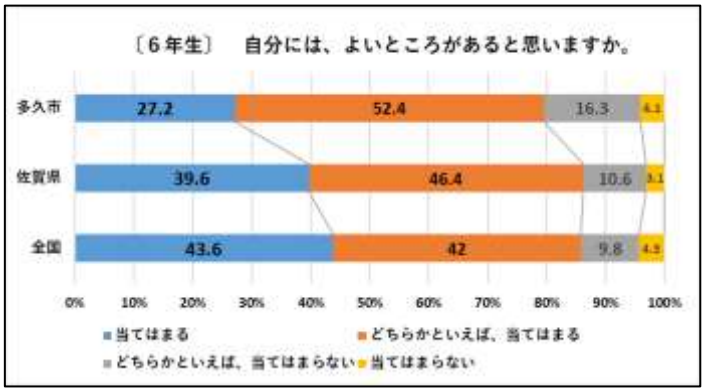




児童調査において、肯定的な回答は６４．６％、生徒調査において、肯定的な回答は６１．３％でした。児童調査、生徒調査共に県や全国を下回っています。児童生徒が困り感や不安を感じていないという見方もできますが、引き続き、相談しやすい雰囲気の醸成やシステムを構築していく必要があります。

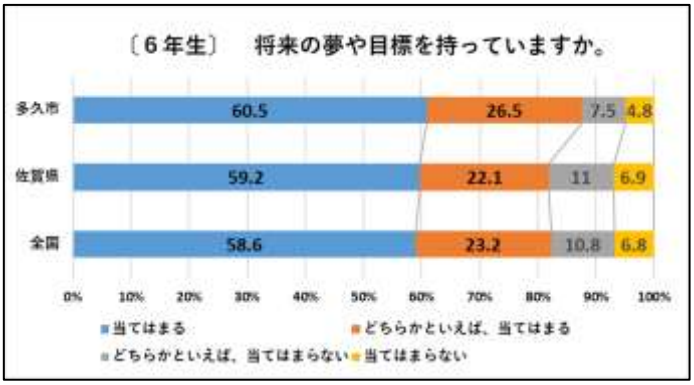
【５．自己肯定感・自己有用感】

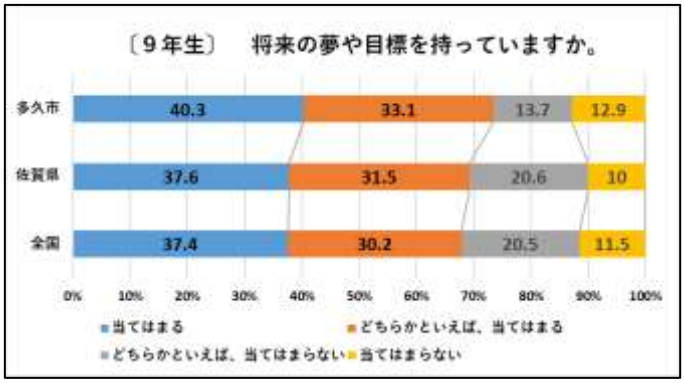




児童調査において、肯定的な回答は７９．８％、生徒調査において、肯定的な回答は７９．６％でした。県や全国よりも数ポイント下回っています。日頃から児童生徒の頑張りを認め、褒めることで児童生徒が自分自身のよさに気づけるような取組を強化していく必要があります。

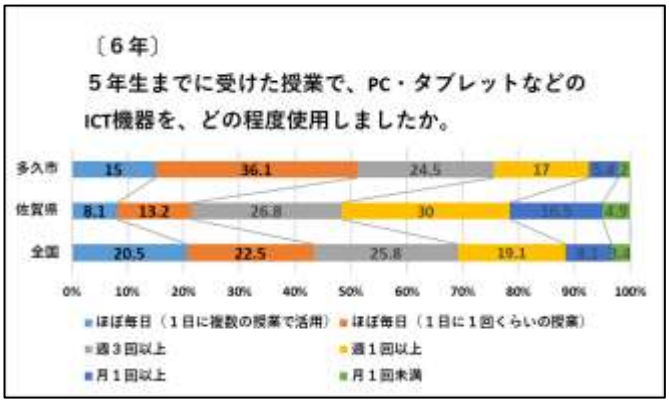
【６．夢・目標】

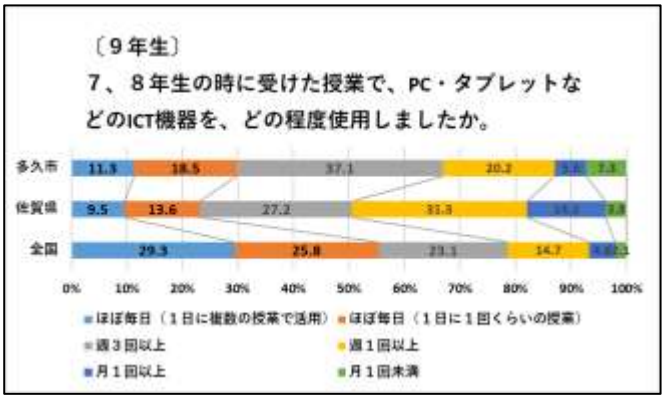




児童調査において、肯定的な回答は８７％、生徒調査において、肯定的な回答は７３．４％でした。児童調査、生徒調査ともに県や全国を上回っており、児童生徒の自己実現に向けて、支援を続けていきます。

【７．ICT 使用頻度】

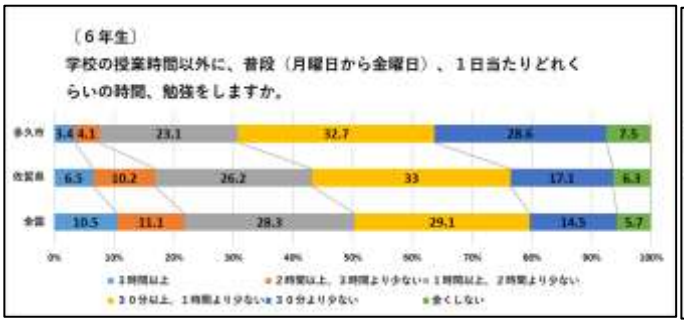


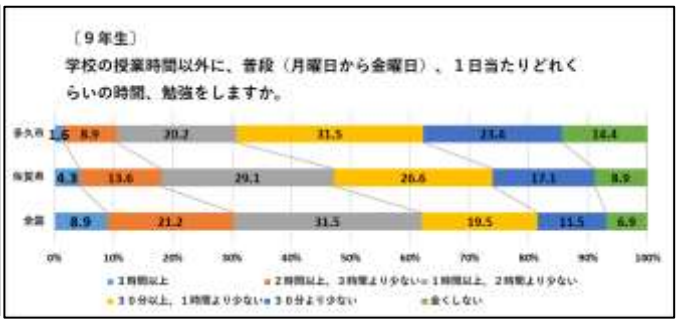


児童調査において、「ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用)、ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業)、週３回以上」は、７５．６％でした。県、全国を上回っています。生徒調査においては、「ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用)、ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業)、週３回以上」は、６６．９％でした。県に対しては、１６．６ポイント上回り、全国に対しては、１１．３ポイント下回りました。昨年度は、児童調査、生徒調査ともに予想に反して ICT 使用頻度が伸びておらず、課題がありましたが、今年度は、改善の傾向が見られました。

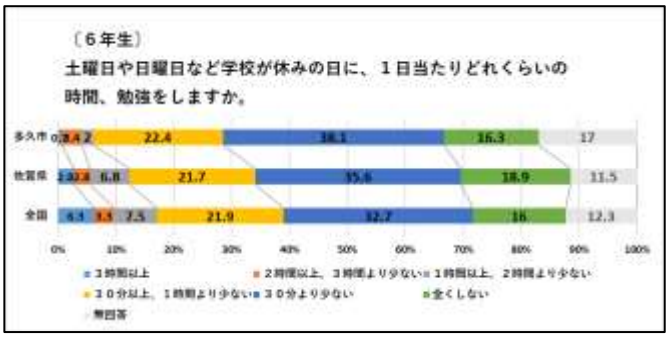
【８．平日の勉強時間　休日の勉強時間】

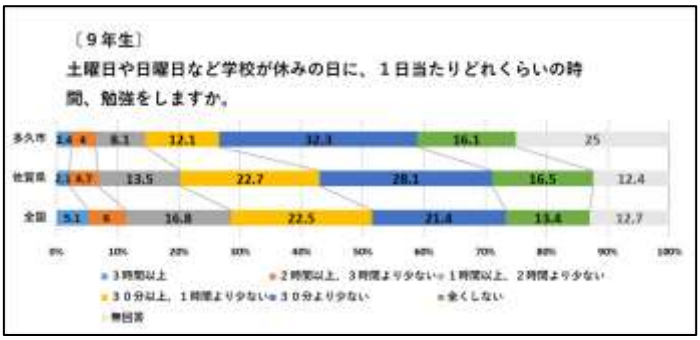
（平日）





（休日）





平日の勉強時間については、児童調査において、「平日に１時間以上勉強している」と回答したのは、３０．６％、生徒調査において、「平日に１時間以上勉強している」と回答したのは、３０．７％でした。児童調査は、県に対して１２．３ポイント、全国に対して１９．３ポイント、生徒調査は、県に対して１６．３ポイント、全国に対して３０．９ポイント下回りました。さらに「３０分より少ない」「全くしない」という回答についても県や全国より高くなっています。

また、休日の勉強時間については、児童調査において、「休日に１時間以上勉強している」と回答したのは、６．１％、生徒調査においては、１４．５％でした。児童調査は県に対して６．３ポイント、全国に対して１１ポイント、生徒調査は県に対して５．８ポイント、全国に対して１３．４ポイント下回りました。

平日、休日ともに授業時間以外の勉強時間が短くなっています。